Interview Case5

浜松医科大学医学部附属病院

牧野 美加 さん

看護師経験：26年（看護部管理室／診療科配属）

特定行為取得区分

- 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連･循環器関連
- 循環器動態に係る薬剤投与関連･動脈血液ガス分析
- 呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連
- 栄養に係るカテーテル管理関連
- (2023年3月に取得、4月より活動)

受講の動機・きっかけは…

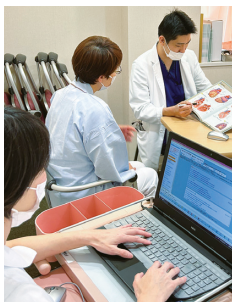
私は心臓血管外科診療科配属看護師として働き始めた当初から、術前・術後の細やかな観察や急変時の対応が求められるこの環境で、医療チームとしての円滑な連携が不可欠であることを実感しました。その中で、医療現場全体の効率を高め、医師の負担を軽減しつつ、看護師としても高度な処置を実践できる特定看護師の役割に魅力を感じ、特定行為研修を受講することを決意しました。特定行為の知識と技術を身につけることで、患者さんに質の高い看護を提供し、医師と協力して治療方針の迅速な実行を支えることを志しています。結果として、医療チームの成果向上と患者さんの満足度向上に貢献したいと考えています。病棟スタッフも医師に直接聞けないことも自分に相談してくれることも多くあります。この状態なら早めに医師に報告した方がいいね！とスタッフと共に情報共有して次につなげられる、そんな積み重ねが大切だと考えています。

やりがいは…

心臓血管外科で特定看護師として働く中で、やりがいを感じるのは、患者さんに寄り添った看護を提供しながら、医師やチームから信頼され、任される仕事が増えていることです。特定看護師として、術後ケアなど、以前は医師が中心となっていた処置を任される機会が増え、そのたびに自分の成長を実感しています。医師から『これもお願いできるかな』と声をかけられたり、自分の対応が評価された時には、特定看護師としての役割の大きさと責任を改めて感じます。また、患者さんが元気になり退院される姿を見ると、やはりやりがいを感じます。こうした日々の経験を通じて、チームの中で自分にしかできない役割を果たしながら、看護師としてさらに成長していきたいと思っています。病院の中でロールモデル的な存在になり、他の病院にもこんな活動しています！という情報提供ができればと思います。

1日のスケジュール

午前	午後
●心臓血管外科カンファレンス ●病棟看護師とのカンファレンス ●回診・処置の介助	●面談同席 ●退院調整 ●退院指導



Interview

浜松医科大学医学部附属病院

小杉 亜沙実 さん

看護師経験：23年（手術部所属）

特定行為取得区分

- ·呼吸器（気道確保に係るもの）関連
- ·呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連
- ·動脈血液ガス分析関連　·栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ·術後疼痛管理関連　·循環動態に係る薬剤投与関連

（2023年3月に取得、4月より活動）

受講の動機・きっかけは…

私は大学を卒業後、脳卒中センター、集中治療部、精神科に勤務し急性期から慢性期まで、多くの患者さんと接してきました。今は手術部で１２年目になります。経験が長くなると、経験をたよりに形式的な看護業務をこなしているだけという現状があり、これでいいのか？もっと出来ることがあるのではと考えていました。子供が成長し私生活に余裕が出来た事もあり、キャリアアップしたいという思いがありました。そんな時に、院内の看護実践報告会で特定行為研修を受けた看護師が医学的知識でフィジカルアセスメントをして人口呼吸器の設定を変更している事を知りました。経験からの知識だけではない、最新の解剖、生理、病理に基づいた知識とアセスメント力を身につけられ、実践で生かせる事に興味をもち特定行為研修の受講をすることに決めました。

やりがいは…

患者さん家族にとって、手術は人生を左右します。手術を安全に終えることへの貢献度の高さがやりがいとなっています。術前では患者さん家族に麻酔の説明をします。気持ちや不安を傾聴しながら、医学的に検査結果をみてリスクを説明しています。「話しを聞いてくれてありがとう」「看護師さんが説明してくれたので、（麻酔科医に）質問はないです」と患者さんから言われると、役に立てたとうれしく思います。手術中は、重症患者さんの担当に指名される事があります。看護師、麻酔科医、診療科医師から信頼され、重症患者さんの対応を的確に先回りして行えると、充実感があります。術後訪問で無事に手術を終わった患者さんから「ありがとう」と言われると、安全に手術が終われてよかったと安心します。患者さんの言葉はやりがいそのものです。

1日のスケジュール

現在特定看護師が手術部に７人在籍しています。2023 年度より周術期看護外来を開始しました。

＜７人の内１人は麻酔科外来勤務：※麻酔科医と一緒に行動＞

・午前：手術前日患者の術前評価

・午後：医療面接で医師と一緒に患者家族に麻酔の説明

・水・金曜日：整形外科病棟に術後訪問　疼痛状況と IV-PCA（経静脈的自己調節鎮痛法）の使用状況を確認

IV-PCA の指導内容やパンフレットを特定看護師が作成しました。

自分の説明で患者さんが満足して“わかったよ！使えたよ”と言ってくれてうれしいです。

術中に特定行為は実施していませんが、術野、モニター、呼吸器、検査結果等をみて呼吸、循環の異常時に的確に麻酔科医に伝える事、それを手術部看護師にも思考発話するよう活動しています。

組織ビジョン & 応援メッセージ

佐々木 菜名代
副病院長兼看護部長

当院では、病院の機能や社会の変化にも対応し活躍できる看護職の育成、さらに大学病院として地域のニーズに応えていくことを目的に、2019 年から特定行為研修を行っています。2024 年 12 月現在、45 人の研修修了者が在籍しています。
研修修了後の活動については、受講前から話し合い、明確化を行っています。「研修を受講することにより、現在所属している部署で何がしたいのか、何ができるのか」ということを、患者中心、そして組織貢献という視点で考えます。活躍のビジョンを描きながら研修を進め、修了後には実現に向けた活動を行ってもらいます。また、「特定看護師会」が、研修修了者の活動や知識の共有、研修会や実践報告会などを行っています。院内全職員を対象とした実践報告会は、看護師のみならず他職種からも高い関心を得ています。特定行為を集中して実施する人、臨床推論アセスメントを中心に活動する人など、その特定看護師の特性をいかして活躍できる場を提供していきたいと考えています。まずは、各部署に 1 人、将来的には各勤務帯に特定看護師が勤務しているような体制を構築していきたいです。
研修修了者の活躍は特定行為の実践に留まりません。Rapid Response Team（院内迅速対応チーム）や夜間・休日の救急外来における電話対応など、高いアセスメント力をいかした組織横断的な活動は、医療・ケアの質向上につながっています。今後も、看護の専門性をいかした安全でタイムリーな実践を、さまざまな場面、場所で行ってくれることを期待しています。

大箸 祐子 医師
心臓血管外科助教

当院の特定看護師は各病棟だけでなく診療科にも配属され、さらにRRT(Rapid Response Team)としても24時間365日活躍をしてくれています。私の所属する心臓血管外科には診療科配属1名、病棟配属3名の特定看護師がおりますが、特定行為の実践はもちろん、病態把握や臨床推論といった研修で得た知識を生かし、我々医師よりも患者さまに近い立場でより早く対応してくださりいつも助けてもらっています。今後、特定看護師がさらに増えたときに、いかに活躍の場を増やし、キャリアの選択肢を提示できるのかが課題ではありますが、これからも指導者としてサポートしていければと思っています。
自分たちよりもずっと病棟にいるので、患者の変化やちょっとした声をダイレクトに聞いてくれて診療に役立っています。病棟の看護師さんも牧野さんの姿を見て自分たちもやってみたい！という声も上がっており、ありがたいです。